

「千秋樂」という言葉の響きが好きです。語源については諸説ありますが、元々は雅楽の最後に演奏される曲名だったとか。

「秋」は「終」と同じ読みで、10月8日に亡くなった第54代横綱輪島こと、輪島博さんの葬儀が15日に行われました。享年70歳。

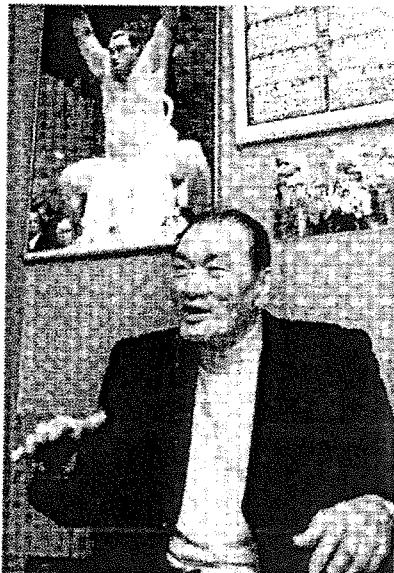
葬儀には大勢の著名人が駆けつけ、故人の人脈の広さが伺えました。デーモン閣下が「千秋樂」というオリジナル曲をアカペラで歌い、出棺時には通算勝ち星の数と同じ673個の金色の風船が空に舞いました。金色は輪島さんが好んだまわしの



長尾和宏（ながお・かずひろ） 医学博士。東京医大卒業後、大阪大、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「薬のやめど」「痛くない死に方」いずれもベストセラー。関西国际大学客員教授。

⑦6

第54代横綱 輪島



輪島さんに下咽（いん）頭が見つかったのは、2013年秋のこと。すぐに切除手術を受けましたが、声帯を失いました。

咽頭は鼻の奥から食道までの通り道となる部分です。上咽頭、中咽頭、下咽頭に分かれます。下咽頭は喉の一一番奥の食道

状があれば必ず受診してください。進行した下咽頭がんでは手術可能な場合、多くは咽頭全摘手術となり、声帯を失うことになります。命と引き換えに声を失うことがどれほど辛いかは、経験した人でないとわからないでしょう。

輪島さんは声を失つても、持ち前の明るさを失うことはありませんでした。かつて不祥事で相撲協会を去り、プロレスラー

明るさ失わず、見事な人生の千秋樂

につながることです。

下咽頭がんは、初期の頃は症状がないことが多い。発見時

には6割以上の人気が進行した状態という、やっかいながんであります。また、3割近くの人に食道がんとの重複を認めます。

食べ物を飲み込む時に異物感がある、しみる、耳の周囲が痛む、声がかれるなどの自覚症

があります。手術後も毎日のウォーキングをかかさず、この夏頃までは、ひとりで地元の商店街に出かけ、食事をすることもあったとうです。

死因は下咽頭がんと肺がんによる衰弱という報道ですが、自宅のソファでテレビを見ながら、座つたまま眠るように逝ったとのこと。「最期は誰にも迷惑をかけず、とてもいい顔でした」と奥様の談。

咽頭がんや肺がんの患者さんから、「このがんの最期は管だらけになつて苦しいのでしょうか?」との質問を受けることが多いのですが、痛みのない平穀死が十分可能であることを、輪島さんが身をもつて証明してくれました。

波瀬（はらん）万丈な人生を歩んだ名横綱の、見事な千秋樂